

ポツポランド 検討委設置

福知山市 市民から2人募集

3月末で休館した「福知山鉄道館ポツポランド」について、福知山市は今後の行方も含め同館のあり方を協議する検討委員会を、

6月に設置する。また委員会に市民目線での意見や思いを反映するため、市民から委員を2人募集する。

ポツポランドは、福知山市下新にある施設が老朽化して立ち退きを余儀なくされ、移転先も見つからなく休館。だが、「鉄道のま

な資料館」として評価され、再開を求める意見は今も多くある。市は再開も視野に、検討委員会を設置のあり方、場所、運営方法に至るまでを協議してもらう。協議を踏まえ年内には結論を出したいとしている。

公募委員は11月ごろまで4回程度の昼間の会議に出席できる、市内在住、在勤、通学している18歳以上の入。 「鉄道のまち福知山」福知山鉄道館ポツポランドに求められること」を400字以内で書き、福知山市産業観光課(24・7077)に提出する。募集締め切りは6月11日(消印有効)。【佐藤孝治】

(1) 昭和21年2月16日第三種郵便物認可

時代に合った設置目的に

ポッポランド
あり方検討委

2回目の会合で意見交換

建物の耐震性の低さなどを理由に、3月末に休館した福知山市下新町の「福知山鉄道館ポッポランド1号館」のあり方検討委員会(杉岡秀紀委員長、10人)はこのほど、駅前町の市民交流プラザで2回目の会合を開いた。今回は設置目的を主に協議し、開館当初の「中心市街地活性化」に固執せず、「町全体が鉄道のまち」をキーワードとして、市内外の人々が交流できる施設に革新する方向性を決めた。

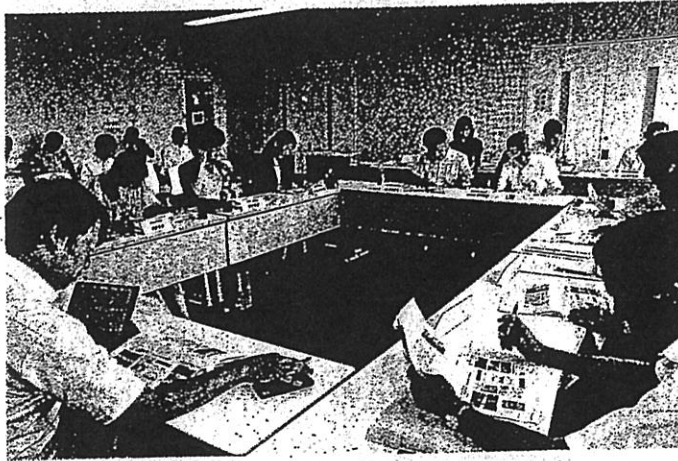
1号館は1998年9月、空洞化が進む中心市街地活性化のけん

引役として開館したが、その後、市内の商店街が7つから4つに減り、当初の設置目的に合わなくなっている。7月に開いた初会合では、再開を前提に協議を進めることを確認する一方、漠然と移転先を検討せず、財政状況を踏まえて考えていくことを決めた。

今回は、設置目的を子育て支援、教育、観光といったソフト面を絡めて見直す必要があるとし、委員が順に意見を発表。長い鉄道の歴史があつて「鉄道のまち福知山」というキーワードは外せないとした。

さらに、「持続可能な施設にするため、ターゲットや展示物の見せ方を変える必要がある」「クラウドファンディング

を利用し、市外の人も含めてみんなでつくるポッポランドにするべき」「市内の子育て世代、市民の憩いの場とすることを第一に考えてほしい」「福知山そのものがポッポランドという見方をしなくてはどうか」など多彩な意見が飛び交った。



設置目的について協議する委員たち

杉岡委員長は「市内に幅広い層が集まる拠点をつくり、先人が培ってきた鉄道のまち福知山の歴史を次世代に継承することも、周辺地域と連携しながら、鉄道資源を活用した持続可能な観光地づくりに寄与する」と総括。「最終的に来館者にお金を落としてもらうように考えないといけない」と収益性についても触れた。

なお、移設地としては市児童科学館やJR福知山駅周辺、廃校小学校舎、鉄道高架下などの案を出した。今後、設置主体・運営方法、資金調達、設置場所などについて具体的に協議を進める。3回目の会合は9月7日に開く予定。今秋をめどに委員会の意見をまとめ、市に提言する。

平成30年9月8日

読売新聞

について意見を交わした。

3回目の今回は、従来の公設民営を軸に議論し、各委員からは、▽入館料を有料にして市民割引を導入する▽運営費を賄うために寄付を募る▽幅広い世代が楽しめる、鉄道のまちの歴史を伝える展示内容にするなどの提案があった。

設置場所の検討案として、利便性を重視する場合には三段池公園や福知山駅、回遊性重視では丹波生活衣館や児童科学館などに施設を分散することが挙げられた。

次回会議は10月5日午前10時から同プラザで、傍聴自由。今秋に議論をまとめ、市に提言する。

ポップランド再開へ 運営や設置場所議論

あり方検討委

3月末で休館した福知山鉄道館ポップランド（福知山市）のあり方を検討する委員会（委員長＝杉岡秀紀・福知山公立大准教授、10人）が7日、市民交流プラザふくちやまで開かれ、再開時の施設の運営方法など



市の担当者から、移設候補の施設の説明を聞く検討委員ら(福知山市内記・市丹波生活衣館)

福知山のポップランド

検討委が移設候補先視察

建物の老朽化で休館中の「福知山鉄道館ポップランド」(福知山市下新)のあり方検討委員会が25日、同館の移設候補に挙がる市内の施設を視察した。委員会とは同館関係者や大学教授、市民ら10人で構成。7月から移設先や展示内容、資金運営などを話し合ってきた。12月に市長に提言書を提出する。

この日は市丹波生活衣館や市勤労青少年ホーム、市児童科学館などを視察。各施設の広さや運営状況などを確認した。生活衣館では、展示会やワークショップに利用されている貸しスペースが候補に浮上中。職員の渡部佳代子さん(51)が「施設は地域の仕事を伝承する役割がある。市民の文化活動の場である

ことも鑑み考えてほしい」と訴えた。視察したポップランドの足立和義館長(79)は「複数力所に資料を分散させる案もある。鉄道ファンだけでなく、多世代が集まれる場になるよう考えていきたい」と話した。

(井上真央)

検討委が移設候補先視察

建物の老朽化で休館中の「福知山鉄道館ポツポランド」(福知山市下新)のあり方検討委員会が25日、同館の移設候補に挙がる市内の施設を視察した。

委員会は同館関係者や大学教授、市民ら10人で構成。7月から移設先や展示内容、資金運営などを話し合ってきた。12月に市長に提言書を提出する。

この日は市丹波生活衣館や市勤労青少年ホーム、市児童科学館などを視察。各施設の広さや運営状況などを確認した。生活衣館では、展示会やワークショップに利用されている貸しスペースが候補に浮上中。職員の高部佳代子さん(51)が「施設は地域の仕事を伝承する役割がある。市民の文化活動の場である

ことも鑑み考えてほしい」と訴えた。

視察したポツポランドの足立和義館長(79)は「複数力所に資料を分散させる案もある。鉄道ファンだけでなく、多世代が集まれる場になるよう考えていきたい」と話した。

(井上真央)



市の担当者から、移設候補の施設の説明を聞く検討委員ら(福知山市内記・市丹波生活衣館)

も 転移分散ポツポランド

年内にも 福知山市に候補地提言

あり方検討委

施設老朽化などで3月末に休館した福知山市中心部の福知山鉄道館ポツポランドのあり方を検討する委員会(委員長・杉岡秀紀・福知山公立大准教授)の議論が大詰めを迎える。25日には委員が移設候補地を視察。施設の「分散移転」も視野に来月には移転先を絞り、年内に市へ提言する見通しだ。

(森秀和)

検討委は、鉄道OBの館長や商店街連盟会長、商工会議所専務理事、元信金常務理事、市民公募の2人など計10人で構成。7月から議論し、運営は従来の公設民営▽鉄道のまちをPR



ポツポランド移転先の候補場所を視察する委員ら(福知山市丹波生活衣館)

福知山鉄道館ポツポランド 市が新町商店街にある1931年建設の建物を借りて98年9月に開館し、蒸気機関車(SL)の動輪など500点以上を展示。西日本鉄道OB会福知山地方本部が2014年、商店街から運営を引き継ぎ、13年度に1万人を切っていた年間入館者を17年度は2万3000人に回復させた。広小路通りにSLを展示する2号館がある。

し、子育て世代や高齢者も憩える施設内容▽入館は有料化する一方、市民割引を導入——などの案を出してきた。

焦点の一つが、休館の主要因にもなった移転先の確保だ。市が検討を進めたものの、新たな「ハコモノ」建設は財政的に厳しく、中心市街地の民間施設ではスペースや賃料などで折り合わなかった経緯がある。

このため、検討委では丹波生活衣館、旧勤労青少年ホーム、児童科学館といった市関連施設が移転先の候補に挙がっている。この日、委員が現地を視察し、担当職員から運営状況の説明を受けた。

ただ、いずれもスペースが限られるという課題がある。また、観光面から回遊性を持たせるメリットがあるとして、移転は機能分散して行う案も上がっている。

次回会議は11月9日午前9時半から総合福祉会館で。傍聴自由。

休館の福知山・ポッポランド

6か所に分散移転

検討委素案

施設老朽化などで3月末に休館した福知山市の福知山鉄道館ポッポランドのあり方を検討する委員会（委員長＝杉岡秀紀・福知山公立大准教授、10人）は9日、施設を児童科学館や丹波生活衣館などに「分散移転」する考えで一致した。市内の鉄道関連施設を含め、6か所を0～5号館と命名し、「まち全体が鉄道のまち」として周遊する仕掛けを作るとしている。

年内に市へ提出する提言書の素案は、歴史継承、観光振興、子育て支援、市民参加をキーワードとし、公設民営で運営するとした。一部を有料化（100円程度）し、運営の人員やコストはボランティア参加や寄付などで賄う。

設置場所は、新規事業を取り入れながら分散させる。SLが展示されている

は映像や資料展示、飲食スペースを設け、4号館の旧勤労青少年ホーム横公園ではミニSL乗車イベントを開き、西駅公園は旧北丹鉄道の歴史を伝える5号館とする。

次回は20日午前9時から市民交流プラザふくちやまで最終会議を開く。傍聴自由。

平成30年11月10日

休館中「ポップランド」分散移転案 “事実上解体”ファン心配も

建物の老朽化で休館中の鉄道資料展示施設「福知山鉄道館ポップランド1号館」(京都府福知山市下新)の今後について、市の諮問機関は今年、収蔵資料を公共施設などに分散移転させる提言案をまとめた。「鉄道のみち」の看板施設が事実上、解体される事態が想定され、市民や鉄道ファンからは心配の声が上がっている。



多彩な鉄道資料が展示されていた「福知山鉄道館ポップランド1号館」の内部。開館最終日には、多くのファンでにぎわった(3月31日、福知山市下新)

北近畿随一の鉄道のみちとして発展した福知山市では、戦後、全国に27あった旧国鉄の鉄道管理局が府内で唯一設置され、約5千人が働いた。ポップランドは市が1998年に市街地活性化の一環で開設。福知山駅周辺のジオラマのほか、旧北丹鉄道の備品や国鉄OBが提供した制服など500点超の資料を展示してきた。

入館者は一時1万人を切ったが、4年前にJR西日本OBらでつくる委員会に運営が移行。元鉄道マンから国鉄時代の逸話や鉄道の知識が聞けると再び話題を集め、昨年度は2万3千人超が訪れるなど復活の兆しが見えだしたところだった。

しかし、数年前から指摘されていた建物の耐震問題を理由に、市は昨年12月、再開を確約しないまま3月末での休館を決めた。「移転先を探してきたが、厳しい財政運営に見合う賃借料や立地条件の物件が見つけれなかった」(市産業観光課)としている。

同館の今後について、市は7月にポップランドのあり方検討委員会を設置。公募の市民や商店街、観光関係者ら委員10人による提言として、収蔵資料を丹波生活衣館や児童科学館、鉄道関連施設など市内6カ所へ分散移転させる案をまとめた。市は提言を受けて今後、資料の具体的な活用策を打ち出す方針だが、従来のような単体の資料館としての再出発は難しいとみられる。

地元では、西日本鉄道OB会が市議会に早期再開を求める嘆願書を提出するなど、ポップランドの復活を望む声は根強い。同館があった新町商店街で洋品店を営む熊谷英子さん(69)は「子どもや孫を連れよく遊びに行った。休館後は商店街の人通りも減りさみしい」と嘆く。ポップランド2号館の運営を担う「福知山SL保存会」の塩見充男会長(77)は「小さい館だが全国にファンがおり、みんな一生懸命やってきた。分散ではなく1カ所で再開させてほしい」と訴える。

検討委の一人で、ポップランド館長の足立和義さん(79)は「(提言案は)何とか『鉄道のみち』の火を消さないようにと考えた末の結論だった」と苦しい胸の内を明かす。その上で「資料には先人の努力が詰まっている。提言を機に『鉄道のみち』を拡大、充実させてほしい」と切望する。

ポップランドには、福知山の足跡と市民の思いが詰まっている。そんなまちの遺産を行政としてどう捉え、発信していくのか。市の姿勢があらためて問われている。

検討委の最終会議は、29日午前9時、市民交流プラザふくちやまで開催される。見学自由。

「ポツポランド」 分散・公設民営に

福知山・検討委提言

建物の老朽化などで3月末に休館した鉄道資料の展示施設「福知山鉄道館ポツポランド」(福知山市)のあり方を検討する委員会が29日、施設を6カ所に分散移転した上で、「公設民営」で運営することなどを盛り込んだ提言書をまとめた。12月5日に大橋一夫市長に提出する。

6カ所は、SLが展示されている福知山駅南口公園や丹波生活衣館の一部、市街地の広小路通りのSL、児童科学館の一部、鉄道の見える伯耆丸公園、旧北丹鉄道歴史を伝える西駅公園。資料展示はミニSL乗車会、ビデオライブラリーなどを計画する。分散させ、入館者に市内各所を巡ってもらう狙いがある。

初期投資や施設整備などは市が担当し、運営を民間に任せる。一部を有料化(1000円程度)した上で、経費を寄付やふるさと納税などで賄う。人件費削減のため、市民らの運営ボランティア参加も検討する。

市は6月に委員会を設置

した。福知山公立大の杉岡秀紀准教授を委員長に、同館関係者や市民ら計10人で構成。6回にわたり協議を重ねてきた。杉岡委員長は「市の財政状態では新しい施設は建てられない。現実的な意見になった」と話した。

(横山健彦)

平成30年11月30日



福知山鉄道館ポツポランドの在り方についての
提言書案をまとめた検討委員会(福知山市駅前
町・市民交流プラザふくちやま)

福知山鉄道館ポツポランド

6カ所に分散移転へ

検討委最終会議

提言案まとめる

休館中の「福知山鉄道館ポツポランド」について、有識者ら
でつくるあり方検討委員会は29日、福知山市駅前町の市民交流
プラザふくちやままで最終会議を開き、同館を市内6カ所に分散
移転させる提言書案をまとめた。来月5日、大橋一夫市長に提
出する。

提言書案では移転先 展示スペース③広小路 ⑤伯耆丸公園⑥西駅公
として、①福知山駅南 通りのS.L ④児童科学 園を提示。「まち全体
口公園の丹波生活衣館 館のシアターと談話室が鉄道のまち ポツポ

ランド」をコンセプト
に、各施設を0〜5号
館と名付け周遊させる
プランを示した。
運営は公設民営方式
を採用。入場料(10
0円程度)や物販、イ
ベント収入などで自立
的な運営を目指すこと

が望ましいとした上
で、施設改修費や人件
費などの運営費がか
かるため、公金投入
の必要性も指摘してい
る。

また、分散移転後の
在り方にも触れ、他の
公共施設に移転する可
能性などの検討を続け
るべきとした。

委員長の杉岡秀紀福
知山公立大准教授は
「ベストは1カ所での
再開だが、市の財政を
踏まえ現実的な案をま
とめた。市には継続的
な議論を期待してい
る」と話した。

(井上真央)

公設民営で再開を

検討委提言へ 機能分散 周遊促す

福知山 ポップランド

建物の老朽化で今年3月に休館した福知山市の「福知山鉄道館ポップランド」のあり方を検討する委員会（委員長＝杉岡秀紀・福知山公立大准教授、10人は29日、同館の機能や保有資料などを市内6カ所に分散させ、公設民営で再開させるよう求める提言書をまとめた。若下の修正を加え、12月5日に大橋一夫市長に渡す。【佐藤孝治】

委員会はこの日を含め6回の会合と視察を重ね、提言の内容を練った。再開後は幅広い層が集まる策として、休館前のポップランド

具体的には、SLと転車台を展示する福知山駅南口公園▽シオラマなどを展示する丹波生活衣館の一部▽広小路通りでSLを実車保存する現在の2号館▽駅弁や記念グッズの販売、カフェスペースも設ける児童科学館の一部▽ミニSL乗車を開く市役所南側の伯耆丸公園▽旧北丹鉄道の歴史を伝える西駅公園――をOS5号館として、鉄道をキーワードに周遊してもらう仕掛け作りを促している。

実施主体は初期投資やハード部分などを「公二（ファンドなども検討）が支え、運営に経営の視点も取り入れられる公設民営が望ましい」とした。提言書には運営の財政シミュレーションも盛り込んだ。

この日の会合では、施設の見方や遊び方を提案する周遊ベストプランや自転車の貸し出しが必要との意見が出た。5日は各委員も出席して、提言への思いを大橋市長に伝えるとしている。